

# 活動実績報告書

2014 年度(平成 26 年度)



公益財団法人 河野臨床医学研究所

品川リハビリテーション病院 (旧北品川病院)・第三北品川病院

リハビリテーション科

---

リハビリテーション科統括	・・・	p.3
品川リハビリテーション病院		
代表	・・・	p.4
回復期病棟部門	・・・	p.5
医療療養型病棟部門	・・・	p.6
訪問リハビリテーション部門	・・・	p.7
第三北品川病院 代表	・・・	p.8

**資料**

・ 診療実績	・・・	p.9
・ 診療実績	・・・	p.9
・ 学術活動	・・・	p.9
・ 科内定期勉強会	・・・	p.10-11
・ 出張 (学会・研修会等)	・・・	p.12-13
・ 研修会参加状況 (院外)	・・・	p.14-16
・ 臨床実習受け入れ状況	・・・	p.17
・ 品の輪 (品川区リハビリテーションネットワーク勉強会)	・・・	p.17

---

# リハビリテーション科 統括

係長／理学療法士 小林 豊

## 事業計画

平成 26 年度より、品川リハビリテーション病院（旧北品川病院）の稼働日数増加が決定しておりました。そのため、両病院を通じての業務調整が必至でした。また、年間を通じて①診療内外での患者サービス、②職員の継続学習、③科内外の情報共有、④勤務環境の 4 視点から抽出した課題への取り組み実行を計画しました。

## スタッフ配置 (技師)

### □品川リハビリテーション病院 (旧北品川病院)

	前期 (4/1)	後期 (10/1)
リハ専門医	2 名	2 名
理学療法士	18 名	16 名
作業療法士	7 名	7 名
言語聴覚士	3 名	1 名

### □第三北品川病院

	前期 (4/1)	後期 (10/1)
理学療法士	7 名	8 名
作業療法士	1 名	2 名
柔道整復師	2 名	2 名

※登録数 (非常勤を含む)

## 回顧・展望

今年度の方針は、人員の配置再編による役割の分配・集中と知見拡大を通じてサービスに還元することでした。漸進的ですが着実に機能し、フットワークを生かせるチームとしての躍動を目指します。部門ごとの取り組みに並行し、カンファレンス様式や装具の検討/適合判定方法の見直し、業者による医療機器・福祉用具デモンストレーションや製品試用の推進、定例勉強会での専門領域継続学習、管理運営研修 (院内外) の提供などを行いました。また、昨年引き続き、診療備品の投資を実施できました。文献検索サイトとの契約も実現し、診療と学習のツールに恩恵があったと思います。

制度関連では診療報酬改定や厚生局の適時調査が実施され、両病院とも滞りなく対応することができました。とはいえ、日々書類作成に時間を要している現状です。次年度に取り組む課題として盛り込みます。また、過去最多数のスタッフが「子のための制度」を利用できました。部門スタッフの協力や、Woman's&Man's Health の理解を発信した者の協力のおかげと思います。

最後に、リハビリテーション病院を 2018 年に医療/介護一体型の複合施設としてリニューアルする予定である旨が発表されました。科では作成した戦略マップに記された内容に取り組み始めております。多彩な変化に備えて業に邁進していく次第です。

## 品川リハビリテーション病院

# リハビリテーション科

係長／理学療法士 梅津 可奈子

### 目標

平成 26 年度は、回復期・療養部門それぞれの特色を生かした運営、スタッフ一人一人への役割配置と能力発揮のための環境作りを目標に取り組みました。また、次年度へ向けた反復経頭蓋刺激療法 (rTMS) の導入と、VE・VF 検査の充実も図りました。

### 取り組み

□回復期・療養部門に専任スタッフの配置  
各病棟のリーダーを中心に、問題解決やスタッフ指導などに取り組む環境を整備しました。以前より結束力が向上し、病棟との連携も行いやすくなりました。また、回復期では病棟リハビリ・リハビリ実施頻度の拡大、療養部門では車椅子乗車推進など各部門の特色が出せるようになりました。

□スタッフ一人一人に適した役割

- ・病棟リーダー (回復期/療養部門×PT/OT)
- ・新人教育チームリーダー (PT/OT 共通の少人数のチーム制とし、中堅層がリーダー)
- ・科内での係

個々の役割の明確化と、一程の指示・決定が出来る立場を定め、能力が発揮出来る環境作りを目指しました。結果、責任を持

って自主的に役割を遂行する場面が増えていきました。

□病棟との連携を図り、業務が円滑に進むシステム作り

- ・リハビリ時間割表のリニューアル
- ・入浴時間のオンライン化
- ・申し送りとカンファレンスの様式変更
- ・PHS の活用
- ・シフト制の導入
- ・リハビリ頻度の増加
- ・病棟自主トレの強化 (回復期)
- ・車椅子乗車推進 (療養病棟)

### 反省・展望

平成 27 年度より新人教育を含む全ての業務を各部門で行う指針が提示されました。それに向けて、本年度は業務を部門単位で実施できる取り組みを実施しました。

また、病院のシステムが大きく変化した一年でしたが、業務は円滑に行えるようになってきています。次年度は、回復期・療養部門それぞれの業務手順などを明確にして、チームでの業務進行を確実にしていくとともに、カルテの電子化など今後に向けた準備を行っていきます。

品川リハビリテーション病院

# 回復期病棟部門

理学療法士 國分 裕子

## 取り組み

□ 日中の活動量の確保・寝たきり防止

リハビリ実施日数の増加、看護師による病棟でのリハビリメニューの作成に取り組みました。

□ 嚥下・栄養評価の強化

リハ医、看護師、介護士、リハビリスタッフ、栄養管理士がチームとなり、月 2 回の栄養・嚥下に関するカンファレンスの実施、VE・VF による嚥下機能評価を開始しました。

□ 退院先生活環境の再現・福祉用具の充実

退院後の生活を想定して、和室の空間をイメージした空間を再現しました。タンス、物干し、布団などの生活家具や介護保険でレンタル・購入可能な福祉用具の充実を図りました。

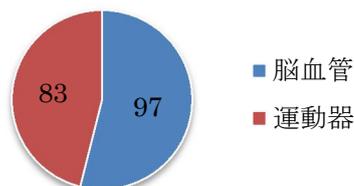


図 1. リハビリ実施者の疾患別分類

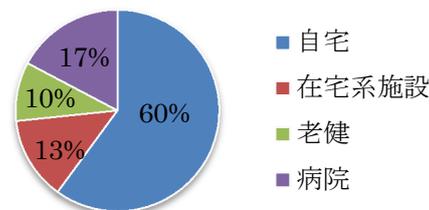


図 2. 退院先

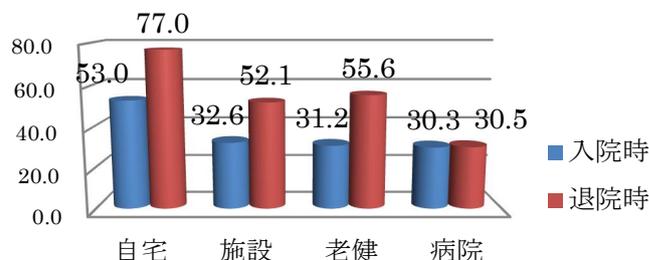


図 3. 退院先別の Barthel Index (点)

## 実績 (図 1~3)

リハビリ実施者は 180 人で脳血管疾患の方が若干多い傾向でした。平均年齢は 77.8 歳、平均在院日数は 77 日、在宅復帰率は 7 割でした。なお退院前訪問指導を行った件数は 22 件でした。

## 展望

患者様は担当制ではありますが、方針の決定・修正などをディスカッションする機会をチーム内に設けていきます。また、次年度は 4 名の入職者を迎えます。専従スタッフでのチームで教育・指導を行っていきます。

## 品川リハビリテーション病院

# 療養病棟部門

理学療法士 西村 美代子

### 目標・取り組み

「病棟生活での過ごし方を改善する」「活動量の向上を図る」ことを目標としました。昨年度から取り組んだ病棟スタッフによるリハビリは、頻度の確保に苦渋する点があったことから他の取り組みも実施しました。

#### □ リハビリ頻度の増加

出勤形態が定休制からシフト制に変更したことに合わせ、リハビリを週 5 回から 6 回に増やす対象を選定しました。申し送り方法を定め、療養病棟内のスタッフで運用できるよう手配しました。

#### □ 日中の車椅子乗車推進運動

できる限り生活上の離床を進めています。バイタルサインの不安定・低体力・介助量の多さなどで日々の生活をほぼベッドで過ごす方々もいらっしゃいました。そこで、1 時間程度の車いす乗車を目指し、達成後に昼食に合わせた乗車を行う指針を提示しました。疲労の蓄積、食事量の減少、状態悪化の管理には、開始前後と 1 ヶ月毎のバイタルサイン・食事量・食事形態・栄養状態の確認を行いました。さらに院内の嚙下ミーティングを通じて、医師・看護師・介護士・管理栄養師を交えて継続・中止の判断を行いました。

### 反省・展望

稼働日が増えたことによる利点はありませんでしたが、リハビリ実施頻度や休日が患者様によって異なるようになりました。システムが変わったことで当初は、ご本人様やご家族様、病棟スタッフからリハビリスケジュールについての質問が多く挙げられました。これに対して病室でスケジュール確認をできるように整理した結果、質問回数は減り、大きな問題が生じることなく運営することができました。

日中の車いす乗車推進は 5 月から開始し、平成 27 年 3 月までで 24 名が対象となりました。若干名がやむなく中止になりましたが、多くは退院まで継続できました。いわゆる「寝たきり状態」であっても、自らの力で車いすに座って療養できるようになった方もいらっしゃいます。中には予定時間を超えてしまう場合もありましたが、情報発信機会の定例化と情報の可視化など、病棟全体で情報伝達方法の再検討を行うことで改善されました。

次年度はさらに安楽かつ機能的な姿勢や、ベッド上生活が主たる方々へのポジショニング方法についての検討を考えています。まずはシーティングについて議論を交わせる場を設け、病棟チーム全体で考えていくよう努めていく所存です。

品川リハビリテーション病院

# 訪問リハビリテーション部門

係長／理学療法士 宮入 裕樹

目標・取り組み

- ① 利用者数の増加
- ② 回転率の向上を目標
- ③ 活動・参加に焦点を当てたリハビリテーションの提供
- ④ 利用者への情報発信

展望

利用者の大半が独居や高齢世帯です。退院後の自宅生活を継続していくには、利用者に関わる各サービスでの情報の共有、連携がより重要であると感じています。利用者の機能訓練だけでなく、生活能力の把握・課題分析・解決方法の提案・利用者様・ご家族様、各サービスへ情報を提供するマネジメントにも力を入れていくよう努めていきたいと考えています。

振り返り

前年度より目標としていた利用者数の増加、回転率の向上に関しては、前年度比プラスとなりました（図 1）。訪問リハビリ専従スタッフを配置することで、サービスを提供する地域も拡大し、より集中したサービスを提供する事が出来たことが大きな理由と考えます。リハビリの内容としてもご自宅内の機能訓練だけでなく、活動・参加に焦点を向けた屋外歩行練習や公共交通機関を利用した練習にも力を入れることが出来ました。

また、今年度より年 4 回の訪問リハビリ新聞の刊行（図 2）と、脱水・熱中症・インフルエンザなどの注意喚起を促す配布物を配布しました。前年に比べて脱水や感染症の報告数は少なく、一定の効果があったと考えています。

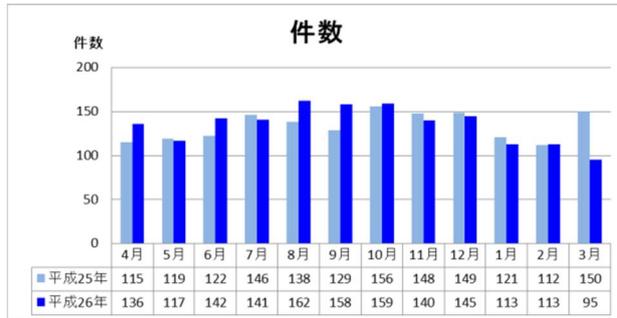


図 1.訪問リハビリ実施件数



図 2.訪問リハビリ新聞

## 第三北品川病院

# リハビリテーション科

理学療法士 宮田 裕希

### 目標・取り組み

平成 26 年度は  
 「報連相実施の機会を相互で作り出す」  
 「他部署との連携強化」  
 「客観的指標を得るための臨床研究」  
 を目標に取り組んで参りました。他部署との連携強化では、特にソーシャルワーカーとの情報交換を頻回に設定しました。診療業務の円滑性が増し、患者様一人ひとりのニーズや環境に則したリハビリテーションを提供できたのではないかと考えます。今後も患者様の早期回復・早期退院に貢献できるよう、他部署との連携強化を図っていききたいと思います。

### 反省・展望

今年度のリハビリ対象数は計 732 名、平均在院日数は 29.4 日でした。中でも、同一疾患患者様間での在院日数のバラつきが目立ちました。年齢や同居者の有無などの影響が大きいと思われます。リハビリテーション科としてできることを再考していくことが課題です。

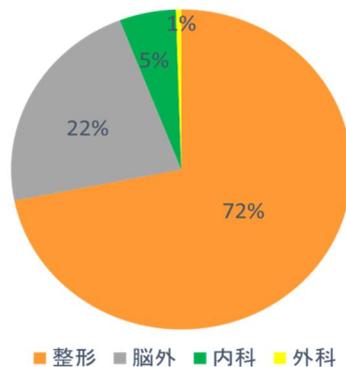
当財団のテーマでもある「リサーチマインドも持って臨床に当たる」ことに関しては、各々が一つ一つの事象について興味や疑問を抱くことができたように思います。

しかし客観的指標を得るまでの段階を踏むことができず、一題の研究テーマに留まる結果となりました。来年度は引き続きリサーチマインドを持ちながら研究に望み、多方面において活用できる成果を残していけるよう努力していききたいと思います。

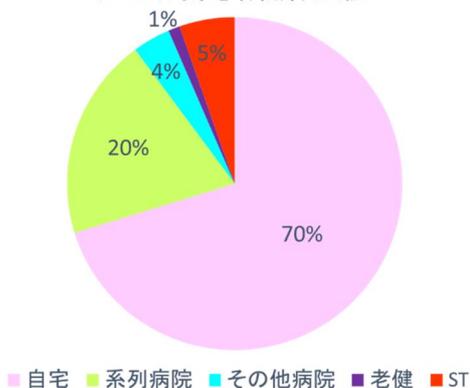
### H26 年度診療実績

対象患者総数・・・732 名

リハビリ対象患者診療科内訳



リハビリ対象患者転帰先内訳



資料

診療実績（入院部門：医療保険）

□ 単位数

		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
北品川病院 (現品川リハビリ)	PT	脳(I)	4,190	4,223	4,643	4,675	5,090	4,561	4,458	3,365	4,826	4,561	4,403	4,486	53,481
	OT	運(I)	2,235	2,407	2,567	2,471	2,767	2,578	2,383	1,809	2,489	2,365	2,199	2,086	28,356
	ST		1,136	1,038	864	588	637	303	341	168	255	307	307	140	6,084
	計		7,561	7,668	8,074	7,734	8,494	7,442	7,182	5,342	7,570	7,233	6,909	6,712	87,921
		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第三北品川病院	PT	脳(II)	2,152	2,094	2,158	2,065	2,174	1,826	2,237	2,050	1,999	1,694	1,660	2,024	24,133
	OT	運(I)	347	368	359	390	366	372	761	637	706	488	340	730	5,864
	JT	運(III)	396	369	428	354	448	421	423	370	415	338	414	388	4,764
	計		2,895	2,831	2,945	2,809	2,988	2,619	3,421	3,057	3,120	2,520	2,414	3,142	34,761

□ リハビリテーション実施件数（延べ数）

		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
北品川病院 (現品川リハビリ)	PT	脳(I)	1,903	1,942	2,046	1,931	2,066	1,786	1,810	1,709	1,933	1,810	1,716	1,892	22,544
	OT	運(I)	964	1,032	1,167	1,056	1,171	1,086	1,002	904	1,071	968	825	894	12,140
	ST		582	494	428	283	316	153	170	113	140	158	156	68	3,061
	計		3,449	3,468	3,641	3,270	3,553	3,025	2,982	2,726	3,144	2,936	2,697	2,854	37,745
		項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
第三北品川病院	PT	脳(II)運(I)	1,206	1,115	983	884	920	833	1,169	1,020	1,043	976	985	1,252	12,386
	OT	脳(II)運(I)	148	169	143	163	151	149	344	274	302	276	158	341	2,618
	JT	運(III)	200	178	202	172	230	241	221	193	240	193	225	214	2,509
		消炎鎮痛	164	139	125	100	100	105	81	73	71	66	64	73	1,161
	計		1,718	1,601	1,453	1,319	1,401	1,328	1,815	1,560	1,656	1,511	1,432	1,880	18,674

診療実績（訪問部門：介護保険）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実施件数	136	117	142	141	162	158	159	140	145	113	113	95
短期集中加算①	0	0	5	6	2	0	0	0	0	0	10	1
短期集中加算②	14	18	13	13	23	24	13	12	5	7	12	19

学術活動

	演題名	様式	学会名	発表者
発表	受傷前歩行時に介助を要していた大腿骨近位部骨折術後患者の退院先に影響している因子の検討	口述	第33回東京都理学療法学会大会	PT宮田
	外来リハビリテーションにおける意識調査	ポスター	第54回河医研医学会総会	JT井上
	履物の違いが段差昇降動作に及ぼす影響	ポスター	第54回河医研医学会総会	PT山崎
	大学病院との比較から見た、リハビリテーション科としての取り組みの一提案 ～慈恵医大病院での研修を通して～	ポスター	第54回河医研医学会総会	PT井上
	骨粗鬆症性椎体圧迫骨折症例に対する新たな取り組み	ポスター	第54回河医研医学会総会	PT丸川
	当院退院後の医療から介護へのリハビリテーションを考える	口述	第10回東京都病院学会	PT西村
	医療型療養病床患者における栄養状態とADLの関連について	口述	第10回東京都病院学会	PT免田
原著	1) 山崎遥人ほか：履物の違いが段差昇降動作に及ぼす影響. 河医研研究年報第64号, 公益財団法人河野臨牀医学研究所, pp23-24, 2015.			
	2) 丸川翔平ほか：骨粗鬆症性椎体圧迫骨折症例に対する新たな取り組み～回復期・療養病棟におけるコルセット解除下での運動療法～. 河医研研究年報第64号, 公益財団法人河野臨牀医学研究所, pp25-27, 2015.			

## 資料

## 科内定例勉強会

日程	内容・題名	発表者
4/2	リハビリテーション科 2013年度下半期活動報告会	
4/9	平成26年度 診療報酬改定について	PT小林
4/16	浮腫について	Dr荒川
4/23	サービスマナー (インサイトラーニング株式会社より)	垣内美恵子氏
4/30	回復期伝達講習 退院支援①	PT鈴木 OT小坂
5/7	回復期伝達講習 退院支援①	PT鈴木 OT小坂
5/14	第1回リスク勉強会 KYT演習	PT外間・佐藤
5/21	症例検討 亜急性期～回復期の片麻痺歩行	PT大橋
	認知神経リハビリテーションを通じて ケーススタディ	PT外間
	コミュニケーションを介してのチームワーク向上	OT小坂
5/28	CI療法とトランスファーパッケージについて	OT堀井
	有料ホームの生活でのトイレ利用に向けて(ケーススタディ)	PT根本
	チームアプローチにおけるリハスタッフの役割について	PT梅津
6/4	体幹スタビリティのアプローチの基礎	PT麻生
	ケーススタディ～中心性脊髄損傷の症例～	OT渡部
	口腔内の見方 ポイントとリハビリテーション	ST梅澤
6/11	食事場面での車椅子シーティング	OT小川
	ケーススタディ～大腿骨頸部骨折を呈した患者様の今後の方向性について～	PT坂井
	ゲイトソリューションについて	PT佐藤
6/18	起き上がりのメカニズムと症例検討	PT丸川
	訪問リハケーススタディ～人工骨頭術後～	PT宮入
	血液データと病態	PT山崎
6/25	VE導入について	ST五十嵐
	インソールの使用方法とその効果について	PT宮田
	血液データと病態②	PT山崎
7/2	右片麻痺症例～ふらつきとつまづきのない歩行の獲得に向けて～	PT山岸
	有料ホームでの移動手段の獲得とトイレ動作自立を目指して	PT菅野
	大腿骨頸部骨折症例の歩容の改善に向けて	PT牟田
	左片麻痺症例の立ち上がり動作の獲得について	PT大川
	覚醒レベルの低下、右片麻痺を呈した症例の車椅子操作獲得に向けて	OT高橋
7/9	装具の選択方法	PT服部
	肩関節の機能解剖～自分の身体を使ってみる～	PT千葉
7/16	脳卒中患者の顔面の問題とアプローチ	PT小林
	CVAの亜脱臼について	OT花輪
	中枢神経障害における姿勢制御	PT鈴木
7/23	片麻痺患者における自転車乗車	PT免田
	座位でのズボン着脱動作改善に向けて	OT若岡
	生活習慣について～食生活とエネルギー代謝～	PT三井
7/30	川平法実技(足関節背屈、片側骨盤挙上・回旋)	OT山岸
	熱中症と経口補液	ST高橋
	服薬について リハビリ科としてできること	PT徳山
8/6	リスク勉強会 当院における感染症の対応と対策	PT外間・佐藤
8/13	リハビリ中の血圧管理について	長石知徳氏
8/20	理学療法におけるウィメンズヘルスについて	PT喜谷
8/27	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」①脳卒中の病態・病理について	
9/3	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」②内科的治療について	
9/10	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」③脳卒中の誘因	
9/17	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」④脳卒中による合併症	
9/24	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」⑤チーム内ディスカッション	
10/1	合同勉強会「脳卒中についての理解を深める」⑥チーム間ディスカッション	

## 資料

日程	内容・題名	発表者
10/8	リハビリテーション科 2014年度上半期活動報告会	
10/15	食事評価・介助について	OT小坂
	転倒予防について	PT宮入
	環境アプローチを用いた座位での更衣練習について	OT若岡
10/22	左皮質下出血を呈した症例	PT三井
	福祉機器について	OT堀井
	安全に離床するために～病棟での車椅子	
10/29	弛緩性片麻痺患者の移乗動作について	PT山岸
	左視床出血を呈した症例	PT菅野
	左大腿骨頸部骨折を呈した歩行中の動揺軽減について	PT牟田
	ADL動作改善に向けて	OT高橋
	パーキンソン症状のある患者に対するバランス能力の向上	PT大川
11/5	緊急時の対応	PT外間・佐藤
11/12	口腔機能の重要性	OT小川
	症例検討 患者様急変に対する考察	PT坂井
	knee-in, toe-outについての考察	PT丸川
11/19	身体図式について	PT佐藤
	Puppy Positionでの治療展開	PT小林
	装具処方の検討	PT梅津
11/26	歩行分析	PT服部
	術後早期リハにおける注意点	PT宮田
	症例検討 重度片麻痺と失語症を呈した症例	OT渡部
12/3	脳画像で予後予測はどこまで可能か	PT山崎
		ST五十嵐
	多発性脳梗塞を呈した長期入院患者の転倒リスク軽減について	PT山岸
12/10	肩甲帯機能と運動療法	OT山岸
	投球動作について	PT徳山
	けいれん重積後の患者のADL拡大について	PT大川
12/17	呼吸リハをするためのレントゲン評価	PT國分
	症例発表	OT山下
12/24	床上動作について	PT麻生
	症例発表 座位獲得に向けて	OT高橋
	膝関節疾患に対する評価と運動学習	PT外間
1/7	手から麻痺の回復を考える	OT花輪
	症例発表	PT牟田
1/14	KYT	PT外間・佐藤
1/21	題名記載無し	PT菅野
	当院退院後の医療から介護のリハビリテーション	PT免田
1/28	合同勉強会「画像所見の見かた」①レントゲン 頸～足部の骨、関節	
2/4	合同勉強会「画像所見の見かた」②レントゲン 胸腔内臓(心・肺)	
2/18	合同勉強会「画像所見の見かた」③CT 脳	
2/25	合同勉強会「画像所見の見かた」④MRI 脳	
3/4	合同勉強会「画像所見の見かた」⑤MRI 脊柱・脊髄	
3/11	嚥下について	ST五十嵐
3/18	新入職員指導・教育について①	グループワーク
3/25	新入職員指導・教育について②	グループワーク

## 資料

出張（学会・研修会等）

日程	内容
4/19	平成26年度 臨床実習(総合)指導者会議 主催:東京メディカル・スポーツ専門学校
4/20	第31回 新しい片麻痺への促通反復療法(川平法)実技講習会
4/25	医学統計セミナー 主催:情報機構
5/11	第31回PTOTST研修会 主催:回復期リハビリテーション病棟協会
5/17	地域包括ケアシステムにおける高齢者のリハビリテーション 主催:NPO法人 福祉フォーラム・ジャパン
5/27	指定(介護予防)訪問リハビリテーション事業所の集団指導 主催:東京都福祉保健局
5/31~6/1	第49回日本理学療法学会 主催:公益社団法人日本理学療法士協会
7/4	AED講習会 主催:急性期医療委員会
7/6	第33回東京都理学療法学会 主催:東京都理学療法士会
7/9	就職説明会(業種説明会) 主催:東京メディカル・スポーツ専門学校
7/13	セラピスト資格継続研修会 主催:東京都臨床整形外科医会
8/2~3	第5回 Stimulation Therapy研究会 主催:Stimulation Therapy研究会 (東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座内)
8/8	就職セミナー 主催:東京福祉専門学校
8/28	医療機関合同セミナー 主催:東京工科大学 医療保健学部
9/6	平成26年度第2回新人教育プログラム研修会 主催:東京都理学療法士協会
10/1	膝関節テーピング講習会 主催:トライ・ワークス
10/3~4	第49回日本理学療法士協会全国学術研修会 主催:日本理学療法士協会
10/8	足関節テーピング講習会 主催:トライ・ワークス
10/12~13	リアル臨床2014~一症例学ぶ力~ 主催:NPO法人 メディカル・リハビリテーション
10/30	パフォーマンス低下に繋がるスポーツ傷害に対するロイコテープの実践的アプローチ 主催:トライ・ワークス
11/9	臨床で使える肩関節評価の実際~肩関節周囲炎編~

## 資料

日程	内容
11/12～13	HOSPEX Japan2014 主催: 日本医療福祉設備協会／日本能率協会
11/14	臨床実習指導者会議 主催: 東京工科大学
11/14～15	栗田診療録管理教育普及基金 2014年度研修会 主催: 公益信託 栗田診療録管理教育普及基金
11/15	平成26年度評価実習 実習指導者会議 主催: 東京メディカル・スポーツ専門学校
11/23	歩行リハビリテーションセミナー 主催: 酒井医療株式会社
11/29	平成26年度臨床実習指導者会議 主催: 文京学院大学
12/6	臨床実習指導者会議 主催: 帝京平成大学
12/6	どうなる介護保険改正と介護報酬 主催: 東京フォーラム・ジャパン
1/9	急性期医療委員会研修会 病院のBPC 主催: 東京都病院協会
1/17	運動学習を基盤とした上肢運動療法セミナー 主催: Pacific Supply
1/25	肩峰下インピンジメントにおける肩関節拘縮の見方と運動療法 主催: 運動と医学の出版社
2/7	地域包括ケアを支えるリハビリテーションについて 主催: 公益社団法人東京都医師会
2/7	品川福祉保健従事者 実践・研究発表会 主催: 品川区社会福祉協議会
2/14	脳卒中片麻痺上肢の新たな治療 主催: パシフィックサプライセミナー
2/21	DVT・リンパ浮腫対策～最新のエビデンスに基づいたアプローチの実際～ 主催: 日本離床研究会
2/22	東京マラソン2015 救護所派遣
2/26	リーダーを支える「部下力」養成講座 主催: 日本経営
2/28	平成27年度介護報酬改定解説と今後の介護経営戦略 主催: MMPG総研
3/1	第10回 東京都病院学会 主催: 東京都病院協会
3/5	初めて学ぶ役職者講座 主催: 日本経営
3/7	平成27年度臨床実習指導者会議 主催: 杏林大学
3/14	平成26年度通所系リハビリテーション研修会 主催: 日本理学療法士協会
3/14～15	平成26年度全職種研修会 主催: 回復期リハビリテーション病棟協会
3/26	第1回医学フォーラム 主催: 日産厚生会

## 資料

## 研修会参加状況 (院外)

日程	研修会名	参加者
4月7日	運動連鎖からみた評価の基礎	PT徳山
4/9	腰椎-骨盤-股関節機能について①	PT丸川 PT山崎
4/13	日常動作の再学習	PT山崎
4/20	促通反復療法(川平法)実技講習会	OT山岸
4/20	脳卒中患者の運動学的アプローチ	PT山崎
4/20	片麻痺患者に対する歩行アプローチ	OT花輪
4/23	腰椎-骨盤-股関節機能について②	PT丸川 PT山崎
4/27	脳卒中における姿勢・歩行障害	PT山崎
4/27	体幹スタビリティの理解と運動療法 ～体幹深部筋の科学的根拠～	PT麻生
4/29	肘、手関節外傷に対する運動療法と触診	OT渡部
5/3-5/5	認知神経リハビリテーション・ベーシックコース	PT外間
5/4	中枢神経疾患における姿勢制御	PT國分
5/11	姿勢や動作のバイオメカニクス	PT山崎
5/11	第31回 PTOTST研修会「カンファレンス再考 ～効果的なカンファレンス実践のために」	PT麻生 OT堀井 ST梅澤
5/14	腰椎-骨盤-股関節機能について③	PT丸川 PT山崎
5/17	地域包括ケアシステムにおける高齢者のリハビリテーション	PT山岸 PT大川 PT菅野 PT牟田 OT高橋
5/17	東京感染対策セミナー	PT小林
5/18	脳卒中における装具療法	PT山崎
5/18	体幹スタビリティの理解と運動療法 ～臨床でできる運動療法～	PT麻生
5/21	腰椎-骨盤-股関節機能について④	PT丸川 PT山崎
5/25	体幹機能の診方とリハビリテーション	OT渡部
5/25	運動器とPNF	PT喜谷
5/25	第5回 東京都言語聴覚士会総会	ST五十嵐
5/31-6/1	第49回 日本理学療法学会大会	PT小林 PT西村 PT麻生 PT山崎 PT坂井
6/8	言語理解とは。言語理解の指導	ST五十嵐
6/8	四肢外傷の単純X線像の読影と運動療法への応用	PT坂井
6/8	コメディカルスタッフのための血液検査の基礎知識	PT丸川
6/11	腰椎-骨盤-股関節機能について⑤	PT丸川 PT山崎
6/15	歩行障害の理学療法	PT山崎
6/15	皮膚テーピング ～機能と治療の考え方～	PT小林 PT大橋
6/15	頸部・胸部の解剖学的重要なポイントと治療	PT徳山
6/17	国際KAWAモデルシンポジウム	OT渡部
6/25	腰椎-骨盤-股関節機能について⑥	PT丸川 PT山崎
6/29	腰痛・足部が学べる運動器セミナー	PT徳山
6/29	嚥下機能向上/褥瘡予防のためのシーティング	PT西村
7/6	頭痛の評価と治療	PT喜谷
7/6	第33回東京都理学療法学会大会	PT宮田 PT佐藤 PT宮入 PT徳山 PT麻生 PT外間 PT小林
7/7	第13回 品の輪 ～品川区リハビリテーションネットワーク勉強会～	PT小林 PT梅津 PT徳山 PT丸川 PT山崎 PT坂井 PT大川 PT山岸 PT牟田 PT菅野 OT花輪 OT堀井 OT山岸 OT小川 OT高橋
7/12	医療現場でのマナーホスピタリティ・クレーム対応実践法	OT小川
7/13	リハスタッフのための薬剤の基礎知識	PT徳山 PT坂井 PT山崎
7/21	ダイナミックバランスコントロール	PT宮田 PT佐藤 PT山崎
7/26	大田区会 ①マッケンジー法、②症例検討	PT小林 PT宮入 PT山岸 PT山崎 PT宮田 PT坂井 PT三井 PT佐藤 PT大川 PT菅野 PT大橋 PT牟田 OT高橋
7/27	末梢性動脈硬化症・DMに対するリハ	PT山崎
8/2-8/3	Stimulation Therapy研究会	OT小坂 OT堀井
8/6	足部の臨床①	PT丸川 PT山崎

## 資料

日程	研修会名	参加者
8/9	新人PT・OT・STのための呼吸リハビリテーション	OT小川
8/10	肩インピンジメント症候群に対する見方と運動療法について	OT山岸
8/17	頸椎機能障害に対する神経モビライゼーションの実際	PT徳山
8/20	足部の臨床②	PT丸川 PT山崎
8/24	神経科学から考える脳卒中	PT山崎
8/24	神経科学から考える脳卒中リハビリテーション～運動機能回復のための臨床手続き～	PT麻生
8/28-8/29	第19回 3学会合同呼吸療法認定士認定講習会	PT麻生 PT免田
8/30-8/31	臨床実習指導者研修会	PT坂井
9/3	足部の臨床③	PT丸川 PT山崎
9/6	第2回新人教育プログラム研修会	PT山岸 PT牟田
9/7	運動療法に結びつく動作分析	PT麻生
9/7	触診・足関節	PT山崎
9/17	足部の臨床④	PT丸川 PT山崎
9/21	上部体幹・肩関節の運動機能障害に対するMSIAアプローチ	OT山岸
9/26	東急病院 地域医療連携連絡会	PT小林 OT小坂 OT堀井
9/28	理学療法士協会 指定研修	PT徳山
9/28	脳を理解するための解剖学	PT山崎
10/1	足部の臨床⑤	PT丸川 PT山崎
10/1	膝関節テーピング講習会	JT木村
10/2	国際福祉機器展	OT小坂 OT堀井
10/3-10/4	第49回 日本理学療法士協会 全国学術研修大会	PT麻生 PT丸川 PT大川
10/5	脳卒中片麻痺患者の歩行再建・歩くことに求められる力学的視点	PT山岸
10/5	コメディカル組織運営研究会 第1回学術集会	PT小林
10/8	足関節テーピング講習会	JT木村
10/12-10/13	メディカル・リハビリテーションリアル臨床2014～症例学ぶ力～	JT木村
10/15	足部の臨床⑥	PT丸川 PT山崎
10/19	触診・肩関節	PT山崎
10/26	姿勢・動作分析のための運動制御理論と運動力学	PT坂井
10/26	頸椎の機能解剖と運動療法の展開	JT木村
10/30	パフォーマンス低下に繋がるスポーツ傷害に対するロイコテープの実践的アプローチ	JT木村
10/31	区南部地域リハビリテーション 症例検討会	PT小林 PT梅津 OT小川
11/2	pusher現象の背景と具体的アプローチ	PT徳山
11/6	機能解剖学から考える足部アーチへのリハビリテーション	PT坂井
11/8	脳システム障害の理解とリハビリテーション	PT山崎
11/9	実践的に学ぶシステム障害の理解	PT山崎
11/9	脊柱の機能解剖と理学療法戦略	OT花輪
11/9	臨床で使える肩関節評価の実際～肩関節周囲炎編～	JT木村 JT井上
11/12-11/13	HOSPEX Japan2014	PT小林
11/14-11/15	栗田診療録管理教育普及基金 2014年度研修会	PT小林
11/23	歩行リハビリテーションセミナー2014in東京	JT木村
11/28	機能解剖学から考える体感のリハビリテーション最前線	PT坂井
11/30	起居動作・立ち上がり動作の動作分析とアプローチ	PT坂井
12/4	機能解剖学から考える股関節のリハビリテーション最前線	PT坂井

## 資料

日程	研修会名	参加者
12/5	機能解剖学から考える膝関節のリハビリテーション最前線	PT坂井
12/6	どうなる介護保険改正と介護報酬	PT免田
12/14	活動分析発表会	OT花輪
12/14	歩行の動作分析とアプローチ	PT坂井
1/9	急性期医療委員会研修会 病院のBPC	PT小林
1/11	関節機能障害の評価と治療	PT大川
1/17	運動学習を基盤とした上肢運動療法セミナー	OT若岡 OT渡部 OT高橋
1/18	最新のエビデンスから考える膝関節障害の機能評価とアプローチ	PT坂井
1/20	大田区会 胸郭運動システムの再建法～基本的な考え方～ 講師:柿崎藤泰 文京学院大学	PT小林 PT丸川 PT山崎 PT坂井 PT牟田 PT菅野 PT大川 OT小川 OT山下
1/25	肩峰下インピンジメントにおける肩関節拘縮の見方と運動療法	JT井上
2/7	地域包括ケアを支えるリハビリテーションについて	PT免田
2/7	品川福祉保健従事者 実践・研究発表会	PT小林 PT西村
2/7～2/8	感覚統合療法入門講習会基礎コース	OT小川
2/8	力の伝達から考える運動連鎖と足部治療	PT坂井
2/14	脳卒中片麻痺上肢の新たな治療	OT小川 OT山下
2/15	学習理論とトランスファーパッケージ	OT堀井
2/21	DVT・リンパ浮腫対策～最新のエビデンスに基づいたアプローチの実際～	PT丸川
2/22	股関節の機能評価とアプローチ	PT坂井
2/26	リーダーを支える「部下力」養成講座	PT宮田
2/27	機能解剖学から考える膝関節のリハビリテーション最前線	PT大川 PT山岸
2/28	平成27年度介護報酬改定解説と今後の介護経営戦略	Dr荒川 PT宮入
3/1	第10回 東京都病院学会	PT宮入 PT西村 PT外間 PT免田 OT小坂 PT徳山 OT小川
3/1	メカニカルストレスから見た頸部障害の評価と治療	PT坂井
3/5	初めての役職者講座	PT西村 PT國分
3/14	平成26年度通所系リハビリテーション研修会	PT小林
3/14～3/15	平成26年度全職種研修会	PT坂井 PT大川 OT高橋
3/15	コメディカル組織運営委員会 第2回学術集会	PT梅津 PT西村
3/21	呼吸リハビリテーション研究会	PT國分
3/23	第15回 品の輪～品川区リハビリテーションネットワーク勉強会～	PT宮田 PT坂井 PT山崎
3/27	機能解剖から考える肩関節	PT山岸
3/28	第4回 脳血管障害への下肢装具カンファレンス	PT山崎 PT牟田

## 資料

## 臨床実習生受け入れ

	学校名	実習	人数
理学療法部門	文京学院大学	インターン	1名
	文京学院大学	評価	1名
	東京工科大学	インターン	1名
	東京工科大学	検査測定	4名
	帝京科学大学	インターン	1名
	東京メディカルスポーツ専門学校	インターン	1名
	東京メディカルスポーツ専門学校	評価	1名
	東京メディカルスポーツ専門学校	見学	2名
作業療法部門	東京工科大学	インターン	1名
	東京福祉専門学校	見学・体験	1名
	帝京平成大学	評価	1名

## 品の輪 (品川区リハビリテーションネットワーク；多施設間勉強会、事務局品川リハビリテーション病院内)

	日程	開催場所	講演
	参加数	参加施設数	
第13回	2014/6/7	昭和大学病院	『片麻痺患者 亜脱臼への支援』 川手 信行氏(昭和大学病院Dr) 花輪 敦美氏(北品川病院OT) 矢筈原 隆史氏(ケアセンター南大井OT)
	32人	7施設	
第14回	2014/11/11	昭和大学病院	『重カストレスによる身体応答と姿勢制御コントロールについて ～Spine Dynamics療法 Pre導入編～』 脇元 幸一氏 清泉クリニック整形外科
	51人	12施設	
第15回	2015/3/25	昭和大学病院	『これからのリハビリテーション職に求められること ～地域包括ケアシステムに向けて～』 川崎 初美氏 理学療法士/フリーランス
	24人	8施設	